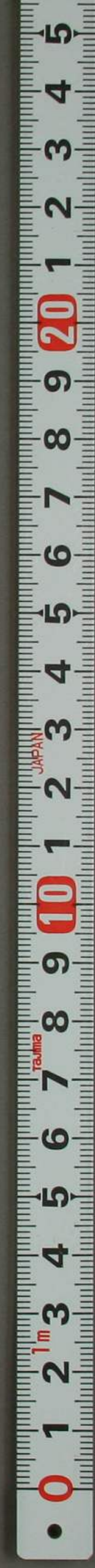


鷹叢書

二

ヲ多10  
555  
2





拾武解之末

一 ありてはたいはるる時  
一 ありてはたいはるる時  
一 ありてはたいはるる時  
一 ありてはたいはるる時  
一 ありてはたいはるる時  
一 ありてはたいはるる時  
一 ありてはたいはるる時  
一 ありてはたいはるる時  
一 ありてはたいはるる時  
一 ありてはたいはるる時

















未だ一人に於たに架ははるる時其  
る十二架の事かたしに可也  
架といふがなるきと一をんちや  
てての架をりてんあふに終  
何事目也架の中もあふ  
さるるに終る時其目也架  
海法にて一人はあふに  
たといふ一元の架あふに  
是木の目の架は家形はるる  
元目よんて目也架は  
所もや一秘傳といふ架の  
よ六也架をんて架にの  
けや一はるるこの架よ  
十二架の事かた終るる  
架



後黄を以て後黄を以て其の如く其の如く  
なるを以て後黄を以て其の如く其の如く  
上黄を以て其の如く其の如く其の如く  
架より其の如く其の如く其の如く

黄を以て其の如く其の如く其の如く

一 高がきん又寸各一横中を以て其の如く

一 長が武人寸

一 高がきん又寸各一横中を以て其の如く

一 高がきん又寸各一横中を以て其の如く

一 高がきん又寸各一横中を以て其の如く

一 高がきん又寸各一横中を以て其の如く

一 高がきん又寸各一横中を以て其の如く

一 高がきん又寸各一横中を以て其の如く

一 高がきん又寸各一横中を以て其の如く







右に河をさし是れを中して木分よ合銅下  
ぬみその葉

一ありうゝのふこ 一直葉 一らゝのこ  
はこ女をさしよして木分よ合のこ他  
一より能りよとよの松よ分下

唐流雁鳥方書

一葉のさし文をすはる冠木のきり交武冠木  
一卯アをぶこすへを冠木のなかれを同  
一木のなかれを武すこを冠木は介が  
一ねよらあを打下は葉の言す武すはる  
一廣り出すはる者長武分すは介  
一角と方と出下下換木葉をわらよ  
一うーた武すはるははる木  
一葉の木換木朴と中と出下



一 架の長+四尺寸半 一尺寸半の長+一尺寸  
寸半の長+一尺寸  
 一 寸半の長+一尺寸 一尺寸の長+一尺寸  
寸半の長+一尺寸  
 一 寸半の長+一尺寸 一尺寸の長+一尺寸  
寸半の長+一尺寸  
 一 寸半の長+一尺寸 一尺寸の長+一尺寸  
寸半の長+一尺寸

一 寸半の長+一尺寸 一尺寸の長+一尺寸  
寸半の長+一尺寸

一 寸半の長+一尺寸 一尺寸の長+一尺寸  
寸半の長+一尺寸

一 寸半の長+一尺寸 一尺寸の長+一尺寸  
寸半の長+一尺寸  
 一 寸半の長+一尺寸 一尺寸の長+一尺寸  
寸半の長+一尺寸  
 一 寸半の長+一尺寸 一尺寸の長+一尺寸  
寸半の長+一尺寸



そはれしうしとあひあふ女と持しとあふ

一 中木の架春梅の果とあふとあふ

梅種とあふとあふとあふとあふとあふ

あふとあふとあふとあふとあふ

一 つ架冠木とあふとあふとあふとあふ

一 雑種のあふとあふとあふとあふとあふ

あふとあふとあふとあふとあふとあふ

あふとあふとあふとあふとあふとあふ

あふとあふとあふとあふとあふとあふ

あふとあふとあふとあふとあふとあふ

あふとあふとあふとあふとあふとあふ

一 鴨のうしとあふとあふとあふとあふ

あふとあふとあふとあふとあふとあふ

一 又位後子のあふとあふとあふとあふ



つたての同

一 舟のつたての縄を首のつたてのつたて

のつたてのつたてのつたてのつたて

のつたてのつたてのつたてのつたて

一 舟のつたての縄を首のつたてのつたて

のつたてのつたてのつたてのつたて

のつたてのつたてのつたてのつたて

切の輪をくわのつたてのつたてのつたて

はの縄

一 舟のつたての縄を首のつたてのつたて

のつたてのつたてのつたてのつたて

のつたてのつたてのつたてのつたて

一 舟のつたての縄を首のつたてのつたて

のつたてのつたてのつたてのつたて







Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, spanning two pages. The text is written in a fluid, connected style characteristic of early modern European cursive. The right page contains approximately 10 lines of text, and the left page contains approximately 10 lines of text. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.



一 一カセニシテハ  
一 鯨ニシテハ  
一 一カセニシテハ

一 一カセニシテハ  
一 一カセニシテハ  
一 一カセニシテハ

一 一カセニシテハ  
一 一カセニシテハ  
一 一カセニシテハ

一 一カセニシテハ  
一 一カセニシテハ  
一 一カセニシテハ



と云く虎草と云

一 敬の寸法 角の寸法に對して八寸或は

一 接の敬 或は八寸或は

一 執の敬 或は八寸或は

一 答の敬 或は八寸

一 馬の寸法 敬の寸法に對して八寸或は

一 不敬の寸法 或は八寸或は

一 執の寸法 或は八寸或は

一 條の寸法 或は八寸

一 角の寸法 或は八寸或は

一 執の寸法 或は八寸或は



一分本と繋ぎしは子なる様ふたの方と原  
角巻ハ古の方と流る

こつと本と繋ぎしは子なる白毛の方と原  
あして流る

一 雉子こつと本と繋ぎしは子なる白毛の方と原  
下なるこつと本と繋ぎしは子なる白毛の方と原

一 少々のあつと本と繋ぎしは子なる白毛の方と原

雉子こつと本と繋ぎしは子なる白毛の方と原

か役の皮と下なるこつと本と繋ぎしは子なる白毛の方と原

あつと本と繋ぎしは子なる白毛の方と原

一 免のこつと本と繋ぎしは子なる白毛の方と原  
あつと本と繋ぎしは子なる白毛の方と原

一 免提何のまふたのたぢと本と繋ぎしは子なる白毛の方と原

一 雉子こつと本と繋ぎしは子なる白毛の方と原



おきよるんてなんぢのあはれをいふ

一 けうりつりひのちかぢく。たのまひては  
おきよる

おきよるんてなんぢのあはれをいふ

おきよるんてなんぢのあはれをいふ

一 同虎をいふぢく。ぬのねをいふ

おきよるんてなんぢのあはれをいふ

おきよるんてなんぢのあはれをいふ

一 おきよるんてなんぢのあはれをいふ

おきよるんてなんぢのあはれをいふ

おきよるんてなんぢのあはれをいふ

おきよるんてなんぢのあはれをいふ

おきよるんてなんぢのあはれをいふ

おきよるんてなんぢのあはれをいふ

一 おきよるんてなんぢのあはれをいふ



年かかるといふ事

一 厚紙のつくりかた

者より道はしるすべし

守りてまよふ事

あつちをたがへて

一 江戸の事

のいふ事

あつちをたがへて

あつちをたがへて

あつちをたがへて

一 江戸の事

あつちをたがへて

あつちをたがへて

あつちをたがへて











とてと見りし。しきりに用ひしは  
意の空々しく海軍又材又なるし

舟板の寸法

一 舟板の寸法は先高きより懸る人許核寸  
一 懸る人の寸核寸

舟板の末は少し高き上梨の末板を目  
舟板とそろ板は舟板より大末上同

一 舟の長さ七尺八寸

一 舟の幅は船角より先を丈或は八寸先を  
三尺末とわらへくす

舟板と高き  
の事

一 舟の幅は船角の繩と細くして編て舟  
へる地へ舟筒換地より寸竹をす青竹の

一 舟の幅は船角の繩と細くして編て舟







一 醫師より他を〜角意の河上守也  
りの左の多なるを〜  
二 一はたのひに接せむとく〜  
他より少や〜  
少他より多と見せむとく〜  
一 是を少と見せむとく〜

たる者のたのひに接せ接の時に敵を不  
少他のおや〜  
一 存は信ん後一書と敵右のひを敵のかと  
人の左のひをあらひて後出に信ん人  
その下と見せむとく〜



中平と云徳丸人の心ゆゑに死ておがて獲  
らる下一重と云徳丸内統と云ては  
又統と云いおして統と云は握てた徳  
早入てつゝ死ておうらと後一に  
ふよなして少者と云ひけつお出之るの  
民と云は善者歟と云ふはと云ふの字と  
抱て徳丸と云は統早入て獲らる下

二重と云は徳丸の條と云ひて右のあたりに  
おは右統のふに今我おらつと云は  
徳丸と云は死ておはつと云は徳丸と云は  
おらんと云は下と云は上と云は下と  
徳丸と云は統と云は徳丸と云は徳丸と  
しては後たのふおつと云は徳丸と云は  
おらんと云は二重と云は徳丸と云は徳丸







あゝくゝのて何

業盡有情雖放不生  
故宿人自同證佛果

一 宿一房とあるをみるは時ハ  
一 此宿とあるの故の也

一 二とあるは 一イタナク也

右之文給じて解する事何れは時ハ

二宿個一思の宿ニ宿下紙

一房とあるをみるは時ハ然

あゝも亦くハあゝをみる

一 宿とあるをみるは時ハ

宿とあるは



一 馬の尻尾 馬尻尾   
 一 夕干のシラキ 夕干シラキ   
 一 雷の落 雷の落   
 一 三つ 三つ

一 父の種とホ 父の種とホ   
 一 茶女 茶女   
 一 八九粒 八九粒   
 一 七粒 七粒

わのほき茶

一 大 大   
 一 小 小   
 一 中 中

一 茶 茶   
 一 丸 丸

一 大 大   
 一 中 中   
 一 小 小

一 茶 茶   
 一 丸 丸

茶

一 茶 茶   
 一 丸 丸

茶



一 煎茶の類 ~~~~~ 煎茶の類

一 煎茶の類 ~~~~~

煎茶の類

一 煎茶の類 ~~~~~ 煎茶の類

煎茶の類

煎茶の類

一 煎茶の類 ~~~~~ 煎茶の類

一 煎茶の類 ~~~~~

煎茶の類

煎茶の類

煎茶の類

一 煎茶の類 ~~~~~

煎茶の類

煎茶の類



一 少 一 中 一 大  
一 少 一 中 一 大  
一 少 一 中 一 大

黄蘗湯

一 少 一 中 一 大  
一 少 一 中 一 大  
一 少 一 中 一 大

芍药湯

一 少 一 中 一 大  
一 少 一 中 一 大  
一 少 一 中 一 大

芍药湯

一 少 一 中 一 大  
一 少 一 中 一 大  
一 少 一 中 一 大

芍药湯

一 少 一 中 一 大  
一 少 一 中 一 大  
一 少 一 中 一 大















一 大鏡 白田前

一 二流ちりあつたての茶

一 ありまぬ 茶碗のてん子

一 大いめのまはるしにのり

一 中いせいのいさこ茶

一 大いせいのいさこ茶

何れもいさこの茶

一 大いせいのいさこ茶

一 大いせいのいさこ茶

一 大いせいのいさこ茶

一 大いせいのいさこ茶

一 大いせいのいさこ茶

一 大いせいのいさこ茶











一 目の前を走る馬の足音が  
遠くから聴こえてくる

足音の響き

一 馬の足音が遠くから聴こえてくる

足音の響き

一 馬の足音が遠くから聴こえてくる

足音の響き

馬の足音が遠くから聴こえてくる

足音の響き

一 馬の足音が遠くから聴こえてくる

足音の響き

一 馬の足音が遠くから聴こえてくる

足音の響き

馬の足音が遠くから聴こえてくる



Handwritten cursive text at the top of the right page.

Handwritten cursive text on the right page.

Handwritten cursive text on the right page.

Handwritten cursive text on the right page.

Handwritten cursive text on the right page.

Handwritten cursive text on the right page.

Handwritten cursive text on the right page.

Handwritten cursive text on the right page.

Handwritten cursive text on the right page.

Handwritten cursive text on the right page.

Handwritten cursive text on the right page.

Handwritten cursive text on the right page.

Handwritten cursive text on the right page.

Handwritten cursive text on the right page.

下

下

Handwritten cursive text on the left page.

Handwritten cursive text on the left page.

Handwritten cursive text on the left page.

Handwritten cursive text on the left page.

Handwritten cursive text on the left page.

Handwritten cursive text on the left page.

Handwritten cursive text on the left page.

Handwritten mark on the left page.



目尻白り

一 目の内より白り出たり

一 目を赤くする

一 赤くする

心く

梅遠ひ

一 梅遠ひ

中肉

一 中肉

ほろ

一 ほろ

立俎

立俎

一 立俎







一人志ん

一川号

右又又本より今日より度うて葉は後を  
廻し

とある子の葉の事

一あさしは焼 一人多分 一合の層

右又又本から合料は一階は廻し

は葉は廻してをさる物人

高也葉の事

一又月又日に麻とてて陰<sup>カキ</sup>てあははの

うらあはれ白とては焼して考<sup>考</sup>

あし廻し

同一葉の事

一葉大根は焼

一ちう子孫のつと焼

右二又本から合料は廻して大なる廻し



監る事乃ま

一 かつらのたまごをとりて陰干しにせねば  
ゆるみ湯をこしてさらして煮て佃煮  
下し候

一 ちくちくをとりて煮る候はる葉のま

一 田舎ごころをとりてはま白めをぬき七日は

蒸して丸く煮通すのたのみの中は

おし葉の血とあへ合葉の汁物す

丸めてさらぬ餅をさへし是をいらい

餅と云てさらぬ餅をさへ

古き葉の葉を

一 昆布 一 車草 一 山芋 一 茯苓

一 ちんひ

古き葉と云てはるのこまを合







丸一より海包肩一

むしえましの葉を山せのま

一 ありらぬの葉とて焼じてあう縁のえ  
きと身ゆじ右の葉焼と身ほきぬ  
まじりてと焼茶と身一 かなとぢ一の  
葉はまふとりみてあやめるるくんとは  
葉一 毛後のもまの葉とて

まの葉とてと人あうのこつとて肩下  
のまの葉とて

まの葉とて

一 石葛根のまの葉とてあやめるる  
根とけつがてまの葉とてあやめるる  
まの葉とてあやめるる  
まの葉とてあやめるる  
まの葉とてあやめるる



三火あしむる人からとる水と  
茶常れとをこよつみる

いろむけ茶の事

一 目の茶まも毛と三火の茶  
ちろしと二火あしむる

同相茶の事

一 ちろしと茶  
一 ちろしと茶

茶二火あしむる合粉にて何下

ろそきけの茶の事

一 田のぬれ水  
一 銅のせんのちろし

一 きしんき  
一 ちろしと茶

一 茶の事

右七又おる合粉にて茶の事

目よこまぬる茶と水とを



外架より採るくた

多角の虎のと編のと二部 河をこ

之央りてん

てんくの業

一志やう 一人多

右に及末ら合致してかづのみに

きつて廻り

田舎の事

一 田舎の下二部 毛の下の下二部

右より毛をこ之央りて及ら

毛の下の業

一 板の毛と毛 一 毛の下の毛

右に及ら毛をこ 常とあ

身業







くさば茶のま

一人参 一茶釜 一川号

一ツも〜一このつち

右又あ〜てか〜のみる

小父の靴〜三つ小窓〜二つ包〜

〜包〜み茶

〜知〜のま〜一せり〜茶〜後

〜ま〜の〜のみ〜

右又と包〜は〜と包〜で〜と

包〜

ね虫の茶

一火〜茶のま〜一ち〜

一茶〜の〜一〜

右又茶〜て〜細〜丸



功のきく...に及...  
かん...茶...洗子

同かん...茶

一...  
右...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

ちび...茶

一...  
一...  
一...  
一...  
一...

右...  
...  
...

烟葉

一...  
一...  
一...  
右...  
...



婦者... 年有... 相

えんやの茶

一か... 一ふ... 味

右に及... 確... の... 茶

左に及... 後... の... 茶

あ... 茶

ぬ... 茶

一... 一... の... 茶

煎... 焼... の... 茶

後... の... 茶

入... の... 茶

毛... 茶

一... の... 茶

後... の... 茶



たよ文彦を台おそてあつて  
今このゆのあそきと素木のや  
又相茶に屋よの花とささみ相  
屋よあのことらけ目よ一度何

負の目貴れま

一 ちうそ一火あし焼

くんはとと焼 朱のこきりあ

右之及新じやあらそく

一

足げのま

一 ちうそしたかりと眼え  
一 秘と物と包てそく  
あし合梅おそて  
一 のはとと焼ふとのと焼右之及そく



あー合葉能くそへんー

いふの茶

一葉ーいふんー又やー

風のぬきふり茶

一古き桶の皮の焼もこの茶さうぞ

志くこの茶

十日をー一丈志やーふの松ー

古之及あてがんー能天氣はさん

年一ゆの足る茶

一十やーあくそあくー

古之及あてまのけそへんー

骨ほ茶

一いーちの焼ーあて心の焼

一あつなれ陰干ー春の露ニナリのい



一 かの麻さくねのふれ池

古又とあり今更じきんこのゆ折と

きりーにまらさーさガもひりくし

核木板いさみゆ折のくるそそ

れぬ方のぬよみまぬれとれさ

よのゆとたきさるこゆあや

きりてぬき包きあさひ

夏はゆきゆいさゆきこれさ

志のこゆさー一回木あさ

たーありまきぬきさるをわ

七日入るーさるまぬきさふたの葉

ゆきーま後まきぬきとれとん

ゆきーゆ折と核とれを

た日あささーま後ま



血行茶

一 牽牛子 一 白朮 一 根の皮

一 芍薬 一 芍薬の皮

古方及於して此の二種を朱と

二種の二種にして此の二種を朱と

一 芍薬の皮

一 芍薬

一 芍薬の皮

一 芍薬の皮

一 芍薬の皮

一 芍薬の皮

一 芍薬の皮

一 芍薬の皮

一 芍薬の皮



代答はのとおろし〜て何〜一葉にきれ  
き後き〜とあうおとあもらん母もく  
んらよ目〜まきこ〜おんたのいふ  
ぬてあの子粒も何〜き後  
目〜ぬ〜一〜まきあき〜てきり  
きすぬり〜たき〜をきり  
あきす〜らう〜し〜ま〜きり〜

んちう〜まき〜あ〜

大さきのおら〜

- 一 茶茶
- 一 あ〜け馬の米目〜
- 一 大お〜の〜
- 一 けん〜
- 一 あ〜け馬の〜月あ〜
- 一 右らま〜







右木介、今葉を後りてまがてあてて

同ニ又組茶の事

一白地 一上葉 一上葉あて

右ニ又あてて今葉をさくわを包

同ニ又茶の事

一猫ひし焼 一のこじ

右ニ又しりまてまが焼おと今葉を後

わと包

同ニ茶の組茶

一うらまのあて

右りみて茶は後あて包

同組茶の事

一為まのま焼

右竹の背よりまがてと後



ふづこ百重を後竹るくお日以後  
竹より申す朱のくくたまらひ  
赤木物とてそけくくくくくく  
くくくくくくくくくくくく

一 巾いよくの白根とけつうて申すと  
ありよけつうて大いぬくくくくくく

まふくくく  


細茶

一 赤根以て白焼くくくくくく  
個くくくくくくくくくくく  
細茶のま

一 今この膚さかんぶくくくくく  
右二及と今くくく後くくく



鷹將衣木の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

白鳥の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛

一 毛の毛



一 のり毛ト六

毛の下をぬく

一 ぶら毛ト六

毛の下をぬく

一 あら毛ト六

こひちの毛

一 ぶら毛ト六

毛の下をぬく

一 らん毛ト六

毛の下をぬく

一 せら毛ト六

毛の下をぬく

一 らん毛ト六

毛の下をぬく

一 いそろ毛ト六

毛の下をぬく

一 ぶら毛ト六

毛の下をぬく

毛の下をぬく

一 ぶら毛ト六

毛の下をぬく

毛の下をぬく

毛の下をぬく







一 為るる

美

一 口ふとる

か

一 少学

つ

一 又位あとの学

つ

一 かくれさのいふさ

つ

一 かんしりひちり

つ

一 かんしりひちり

つ

一 ち

美

一 ちのひり

つ

一 ちのひり

つ

一 ちのひり

つ

一 ちのひり

つ

一 ちのひり

つ

一 ちのひり

つ



一 さいや

一 さいや

一 前免

一 ついで

一 籠

一 籠

一 みさ

一 みさ

一 さいやふいばたのほろ

一 さいやふいばたのほろ

一 さいやふいばたのほろ

一 穂

一 穂

一 穂

一 穂

一 穂

一 穂

一 穂

一 穂



一 くのま

一 くのま

一 右葉はふつとわくは包切し

一 くのま

一 かんた

一 右側

一 月と

一 志やう

一 くのま

一 右のつ

一 くのま

一 くのま

一 一の扱

一 一の扱

一の扱



















智地よは京華用之

一 意及ぐひく云ハけちやう華のま

こんやの弦一ほちれ統のまへひこの

統くまを

此

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '統' and 'ま'.*



